

- 放送日 令和元年7月30日（火）、8月6日（火）
- テーマ 「GAP生活について」
- 出演者 長野県富士見高等学校 GAPチーム 3年 <sup>いしはら</sup>石原 <sup>かえで</sup>楓 さん  
同 同 3年 <sup>ながさき</sup>長崎 <sup>かなえ</sup>佳菜恵 さん

○ 聞き手とのやり取り（概要）

Q まずは、自己紹介をお願いします。

A こんにちは、富士見高校GAPチームの3年 石原楓 同じく 長崎佳菜恵です。

Q いきなりですが、GAPチームとは、何なのですか？

A はい、GAPチームとは、グローバルGAP国際認証を取得するために結成されたチームのことです。

Q グローバルGAPについて、少し教えていただけますか？

A はい、簡単に言うと、農産物の国際基準のことです！

カッコよく言うと、グローバルスタンダードです。生産した農産物を海外へ輸出したり、2020年東京オリンピック、パラリンピックの選手へ食材を提供することもできるんです！

Q ところで、GAPチームに入ろうと思ったきっかけを教えてください。

A はい、先生に「先輩たちとGAPをやってみないか！」と声をかけられ、思わず「はい」と言ってしまったことがきっかけです。

Q ちなみに、この基準はどうしたら取得できるのですか？

A 第三者による審査を受ける必要があります。審査当日まで考えられるリスク（問題）をどんどんつぶしていきます。審査当日は種類と現地審査があり、対話形式で進められていきます。長くて8時間かかりますね。審査が終わって是正処置をおこなった後に、ようやく認証取得できます！

Q 高校生がグローバルGAPを取得して、生産したトマトの素晴らしさを教えてください。

A 地域で販売すると、わずか10分で完売になるほど人気があることはもちろんですが、取引先との信頼性向上につながっていることです。9月からは、銀座のレストランや富士見カゴメファームとの契約にもこぎつけました！

Q GAPチームの活動を広める活動はしていますか？

A はい、信州松本空港や東京都内において、トマトの無料配布をしながらPRしてきました。

この他、私たちが先生役になって、トマトの生産や販売に関わることができるように、ルールや手順、安全教育について、教えています。

Q 周囲の方たちの反応はどうですか？

A 最初は皆さん、GAP認証について認知度が低く「何それ？」という感じですが説明すると、「世界標準すごいね！」とか、「高校生でよく認証取得できたね！」とか、「これからも頑張っ！」など、励ましの言葉をいただけるので、私たちのモチベーションに繋がっています。

Q GAPに取り組む中で、特に大変な事や苦労していることは何ですか？

A トマトの栽培管理をしながら、基準文書の中からどんなことが求められているのかを理解し探し出すことは3年間で理解してきました。でも、これだけやっておけば完璧ということがなくて、リスクを減らすためにはどうしたらよいかを常に考え、改善を行っていくことが大変で、ゴールがないことです。

Q グローバルGAPを通じて身についたことや成長できたことはありますか？

A はい、実際にトマトの管理全般に携わらせてもらうことで、安全で安心な農業経営のあり方について理解が深まりました。具体的には「こうすれば効率よく安全に作業できるな！」とか、常に先をみて行動できるようになりました。あとは、大人と対等にお話しすることができるようになったことですね。

Q お二人は現在3年生ですが、進路は決まりましたか？

(石) 「3年間培ったGAPの知識を生かして、富士見町のカゴメ農場で働きたいです！」

(長) 「さらなる高みを目指して、長野県農業大学校で経営の知識とGAPのことを学びたいです！」

Q 最後に、今後のGAPチームの夢を聞かせてください。

A はい、私たち高校生が生産したトマトを世界に発信していくため、2020年東京オリンピック、パラリンピックの選手への食材提供から、海外マーケットへの輸出を目指していきたいです！